

初仕事の厳しさ

一日体験談

被保護者（34歳）

今回社会復帰での最初の仕事として、「建築・土木」の会社へ臨時に行く事となりましたが、私の心の内は不安で一杯でした。このような気持ちになる事も先ず今だ嘗て経験した事が無かったので私のような人間が務まるものなのかと自問自答の繰り返しでした。然し、施設長さんから、わざわざ言葉を頂いたので行かせて頂きましたが、私の不安が的中したかのように、戻された現場は「解体」でした。このような体力仕事なので「きつさ・厳しさ」は心得ておりましたが、正直、初めの気持ちの段階から体力がもたないと思っておりました。何にせよ何年間のプランクがありましたから、私の予想以上に体が動かなく、ましてや未経験という事もあり、何をしてもいものか戸惑うばかりでした。

この私の行動が現場の皆さんに迷惑をかけているという事も、十分に分かっておりました。その気持ちを察しておりましたから無駄に時間を過ごすよりも何かしら役に立たなければいけないと思い、現場の方に聞きながら仕事を熟しました。結果的に、体力の限界もありましたから一日しか働きませんでした。この厳しさを知った事も私の中では良い経験だったと思います。この経験を生かし新たな職探しに取り組み、安定した生活を目標に頑張っていきたいと思いま



無期刑での仮釈放

40余年ぶりの娑婆

被保護者（58歳）

す。最後になりますが、会社の社長さんを始め施設長さんには大変感謝をしております。今後このような仕事はないと思いますが、わざわざ仕事を頂いた事有難いと思っております。「戦力」にはなりませんでしたが、お金を稼ぐという事が改めて知りました。「決して楽には稼げない」今後も、心中に収め頑張っていきたいと思います。

(原文のとおり)

昭和41年、私はある県の小さな町で罪も恨みも無き人を殺めました。自分で出来ず共犯者に殺させました。卑怯者です。過去を悔い深く反省しております。私の場合奇遇と申しますが入所日と出所日が同じです。現在千葉県帰性会にお世話になって居ります。ここ保護会は、色々な設備が行き届き、食事も美味しい。又、施設長さん始め職員の方々の親切丁寧に感謝して居ります。建物のまわりに植木がたくさん有り緑に囲まれて本当に環境の良い素晴らしい所です。私は保護会に来て精神的肉体的に10年若く成りました。今後は先生方のご指導を受け一日も早く自立できる様に努力します。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この辺で私の感想文と致します。

(原文のとおり)

役員のスレ顔



帰性会 評議員

鶴岡 志さ江氏

絵手紙グループ「ほほえみ」の代表者をご紹介いたします。

6年程前から先生の呼びかけで先生の自宅において絵手紙を書かれています。「ほほえみ」というグループ名も先生が名付けられたものとのこと。ご近所の方6名ほどのグループだそうです。

8月の12日午後2時ころ先生のご自宅にお伺いして作品を作っているところを見せていただきました。絵の具は、顔料とかを使っている秘訣は「へたでいい、へたがいい」との会のスローガンだそうです。でも皆さん本当にお上手でした。それ以上に楽しそうでした。終わってからスイカ、お菓子などをおいしく



頂きました。当会の食堂の掲示板には、いつも絵手紙と俳句が飾られています。季節の変わり目ごとに俳句とともに入れ替えて下さり在会者の目を楽しませて頂いています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



作品を手に取り当日お集まりいただいた皆さん